

想

映画「ディアンドナイト」

三種町ロケ

町長 三浦正隆

いよいよ11月にこの映画のロケが三種町と鹿角市で始まる予定です。テレビのロケはじゅんさいがらみで結構ありますが、映画ロケは初めてではないでしょうか？三種町でのオーディションに県内各地から120人の応募があったとか。関心の高さを窺わせます。

この映画は人気俳優山田孝之さんの初プロデュース作品です。山田さんは鹿児島出身で昭和58年生まれの34歳。監督は若手監督の注目株と言われている藤井道人さ



映画ロケが予定されている釜谷浜

んで東京都出身、昭和61年生まれの31歳。脚本は小寺和久さんで大阪府出身、昭和58年生まれの36歳。主演は阿部進之介さんと山田さんの親友とか。大阪府出身、昭和57年生まれ、NHKの大河ドラマにも出演したことのある35歳です。この4人とも30代でお互いに近い年齢ということもあり、ガチンコでぶつかり合いながらすごい作品を作ってくれるのではないかと期待しています。

あらずじ…何基もの風車が回る田舎町。平和で穏やかで、小さいながらも活気のある町。しかし昼から夜へ変わる頃、その町は一転、様相を変え始める。昼は児童養護施設の園長を務める、夜は無国籍犯罪集団を率いる男と、その人間の生き方に影響を受けた男、そして孤児であった少女の善悪に苛まれながら必死に生きる物語。

この映画の企画・制作会社は(株)and picturesで、渋谷区恵比寿にあります。2008年の設立からこれまでに短編映画を45本以上、長編映画10本以上の制作に携わり国内外の映画祭で多数受賞し

ているとのこと。東京出張の折、会社訪問して来ました。昨年公開された「サブイボマスク」と「ホテルコパン」を見ましたが、ストーリー展開など面白く出来上がっています。

同社の『地域開発映画プロジェクト』コンセプトによれば「映画へのロケーション誘致及び映画制作をきっかけに『できる化・見える化・しくみ化』という地域活性化を推進する取り組み。」とあり、映画を通して地方の活性化を図るといふ今の時代らしい目の付け所だと思えます。莫大な制作費を使える大手とは違いますが、しっかりとした作りをしていると感じました。

今回のロケ地誘致事業については色々なご意見があるかと思えます。しかし、人口減少により、自治体の消滅の可能性が取りざたされる現在、自治体は「倒産」の可能性にさらされる民間企業と似たような状況にあります。全国の多くの自治体職員が「このままではいけない」と感じ、さまざまな施策を講じて奮闘しています。

どなたが言ったか忘れましたが、私は「リスクの無いところから学べるものは無い」という言葉が好きです。本町ではこれまでもふるさと納税やスポーツ文化合宿事業などを行う上でリスクを取ってやって来ました。このロケ地誘致事業も多少のリスクはあるかも知れませんが、期間中の報道等により本町の知名度を大きく高める可能性があると、また、何よりもこの事業に携わることによって職員がロケ地誘致に関するノウハウを蓄積できること、更に、ボランティアとして携わる町民の皆様がワクワクするような期待感を持たせてくれること。これらの効果を総合的に判断すればこれは是非やるべきだと考えております。皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

今日から10月、収穫の秋です。今月もどうか体調管理に充分気を付けて健康で元気にお過ごし下さい。



左から 阿部進之介さん 山田孝之さん